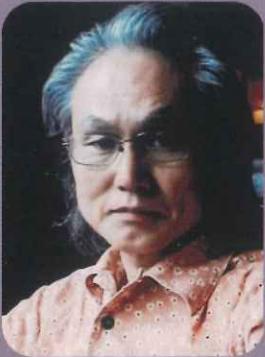


プッチーニが愛した蝶々さんは  
世界中から愛される女性となりました  
蝶々さんが命を懸けて愛し、  
日本人として信じた道を突き進んだが故の  
悲劇。  
ハンカチを持ってご来場ください。



指揮  
かみお のぼる  
神尾 昇

演出  
おおしま たかし  
大島 尚志

ピアニスト  
うえだよう

## 出演キャスト



蝶々夫人  
しまむら ゆうこ  
島村 侑子



F.B.ピンカートン  
よしみ よしてる  
吉見 佳晃



シャープレス  
おか あきひろ  
岡 昭宏



スズキ  
しんぐう ゆり  
新宮 由理



ゴロー  
すどう しょうた  
須藤 章太



ケイト・ピンカートン  
こにし ゆりか  
小西 佑里香



蝶々夫人の息子  
くしだ はると  
櫛田 暖人

## 稽古ピアニスト・スタッフ



岩崎 能子  
いわさき よしこ



河崎 恵  
かわさき めぐみ

ケイトから見た蝶々さんという女性を、ケイトのお話によって、過去を振り返りつつお届けいたします。

ケイトのお話から、その時の状況が分かりますので、オペラ初心者の方でも安心です  
出演者一同で、皆様に感動をお届けいたします。

の幕が上がる

蝶々さんはこの時15才。結婚を心から喜んでいました。時は1890年代、舞台は長崎の港を見下ろす丘に立つ家。アメリカ海軍士官のピンカートンは、日本人の芸者蝶々さんとの結婚を「お金」で買います。ピンカートンが結婚生活も束の間、ピンカートンがアメリカに帰ってしまいます。彼が去って3年が経ち、蝶々夫人の生活は困窮していきました。「他の男の妾になれば」という助言もありますが、蝶々夫人はピンカートンを信じて彼の帰りをひたすら待ちます。そんな折、長崎の港にピンカートンの所属する軍艦が入港したのを確認します。

舞台監督:小田原築(アートクリエイション)

字幕:水野明人

ご芳名\_\_\_\_\_様

〒\_\_\_\_\_

チケット枚数 一般:\_\_\_\_枚/ペア券:\_\_\_\_枚 学生:\_\_\_\_枚

ご住所:\_\_\_\_\_

お電話:\_\_\_\_\_

メール:\_\_\_\_\_

2022.10.1

チケットのお申し込みは上記にご記載の上、下記ファックス番号までお申込み下さい。  
後程こちらからチケットと振込用紙を送らせて頂きます。 Fax. 0120-921-881